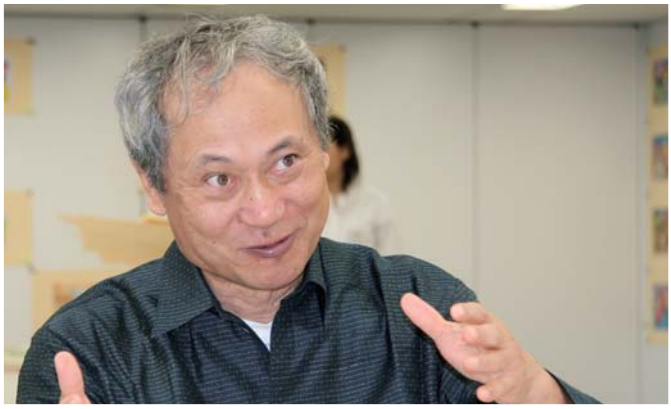
地球環境世界児童画コンテストレポート



絹谷幸二先生（東京藝術大学教授・画家）に聞く

第1回より地球環境世界児童画コンテストの審査委員長を務めていただいている絹谷幸二先生に、「子どもたちと絵画」をテーマに語っていただきました。

子どもたちの「夢の力」を育む

絵画はあくまでもイメージの世界。従って、地球環境にダメージをまったく与えず、また場所や重力などの制約を受けることなく、思ったまま感じたままに作り出すことができます。例えば建物や橋を作る作業とは違い、絵を描く行為は世間的には役に立たないものだと思われがちです。確かに、雨風から人を守る、川の向こう岸に渡れるといった直接的な「用」は成さないものの、絵を描くために必要な「イメージする力」、あるいは「夢の力」には、無限の可能性が秘められている点が大きな特徴といえるでしょう。

その典型的なケースが、レオナルド・ダ・ビンチ。「鳥のように大空を羽ばたきたい」という夢をデッサンして形に残したダ・ビンチのイメージがあったからこそ、今日のヘリコプターや飛行機の誕生につながったといえます。特に日本のような、モノ作りによって発展を遂げてきた国にとって、幼少の頃から絵画を通じてイメージする力、夢の力を育てることは、とても大切でしょう。

通常、学校教育では一つの正解を求めて答案用紙を出すように要求しますが、絵画の世界は違います。他人とできるだけ違った解答のほうが評価されるため、絵を描く力を鍛えることは、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばす上でとても重要な役割を果たすだろうと思います。実際に世界各国の子どもたちの絵を見ていると、「この国は、子どもたちの“夢の力”を育てる教育をしているな」と感じることがよくありますね。

絵画は、描く人間の心を映し出す、いわば合わせ鏡のようなもの。従って、美しい心が宿っていれば、それがそのままキャンバスに反映されます。子どもたちが描いた作品を前にすると、大人になると失われがちな美しい心、素直な感性が色彩や構図の端々から伝わってきて、あらためて勉強させられる思いがします。絵を見るわれわれ大人のほうが、子どもたちの熱意をどこまで理解し、くみ取れるかを試されているような気持ちにさせられ、大いに刺激になります。

絵画は、国境や言語、政治や宗教といった障壁を飛び越えて、見る者の心に強く訴えかける力を持っています。絵に込められた美しい心は、やがて見る人の心にも伝播し、育まれていくものなのです。子どもたち一人ひとりの美しい心、素直な感性が、そうした“心の受け渡し”によって世界中に広がり、豊かに育まれることを願ってやみません。

PROFILE

絹谷幸二（きぬたに・こうじ）先生

1943年奈良県生まれ。68年東京藝術大学大学院壁画科修了、独立美術協会会員となる。71年イタリアへ留学しヴェネツィア・アカデミア入学（アフレスコ古典画法を研究）、74年第17回安井賞受賞、77年文化庁昭和52年度芸術家在外研修員として渡伊、83年第2回美術文化振興協会賞受賞、87年第19回日本芸術大賞受賞、89年第30回毎日芸術賞受賞、文部省海外学術研究・学術調査のため渡欧、先史時代壁画を調査、93年東京藝術大学美術学部教授に就任、97年長野冬季オリンピック公式ポスター「銀嶺の女神」他、7種競技別ポスター原画制作、2001年日本芸術院賞受賞、日本芸術院会員に推挙される、03年個展「黙示録 絹谷幸二展」（世田谷美術館）開催、06年世田谷美術展（開館20周年記念）に「《語り合う二人》2001」を出品。

絹谷先生のホームページ　http://www.artstyle.jp/top.php

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK
本誌は、植物性大豆油インクを使用し、100%再生紙へ水なし印刷方式で印刷しています。
水なし印刷方式は仕上がりが美しく、有害物質を含む排水を出しません。